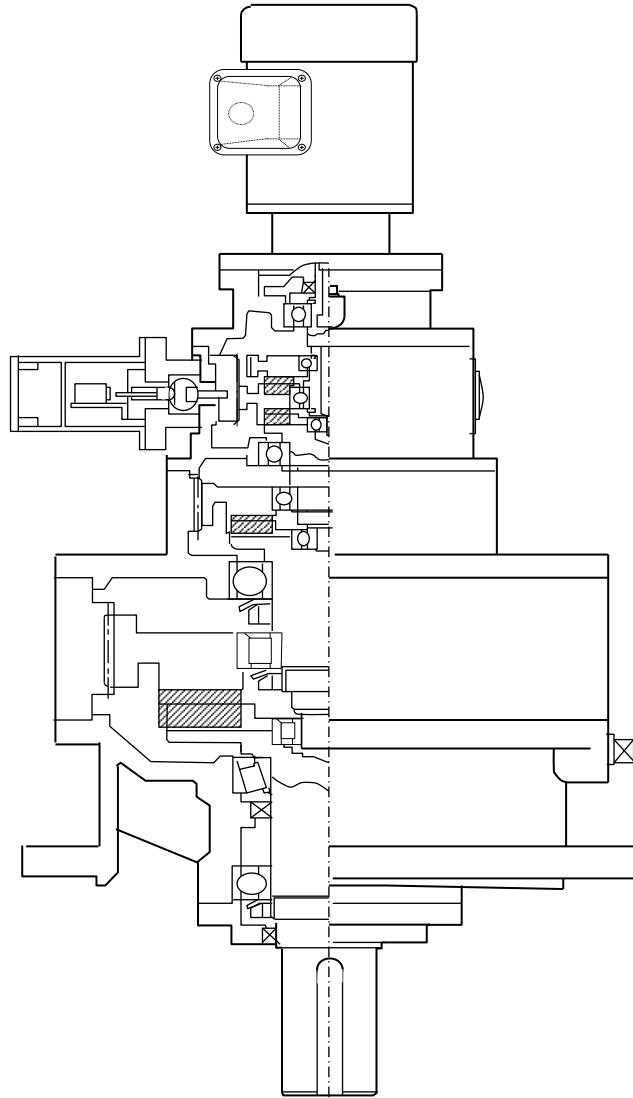


減速機取扱説明書



株式会社 東伸

・保証期間は本機を御使用(実稼動)後1年間となります

・出荷時にオイルは入れて出荷しております

・オイル交換目安時期 稼働後6ヶ月

2回目以降 1年/回

・定期メンテナンス 3年～5年目安

▼ 修理・施工・故障等についてのお問合せ先

8:30～19:00(日・祝休)

TEL 03 - 4283 - 1385

▼メールでのお問い合わせ

E-mail : info@toshingensokuki.com

指定オイルと該当品

工業用ギヤー油 2種（極圧）

粘度区分	社名	品名	
I S O VG100	M o b i l	モービルSHC600シリーズ (627)	100
	出光興産	ダフニースーパーギヤーオイル	100
	シェルルブリカンツ ジャパン	シェルオマラオイルS2	100
	ENEOS	ボンノックTS	100

II 潤滑油の交換

1, 潤滑油は定期的に交換して下さい。

(イ) 1回目は6ヶ月後)

(ロ) 2回目以降は1年/回 特に油が劣化したような場合、または運転条件が苛酷な場合は
より頻繁に交換して下さい。

2, 古い油は運転停止後、油が暖かい間に抜き取って下さい。

3, 運転に使用する油を減速機に入れて数分間運転させて良く洗浄し油を抜いてから新油を入れて下さい。

4, 油量は油面計の1/2～2/3位が適量です。

5, 油量の測定は停止時に行ってください。

6, 油が多すぎますと温度上昇の原因や空気穴より油が吹き出す場合があります。

7, 周囲温度が-5℃以下の場合、又は+40℃以上の場合には使用条件により油を選定して下さい。

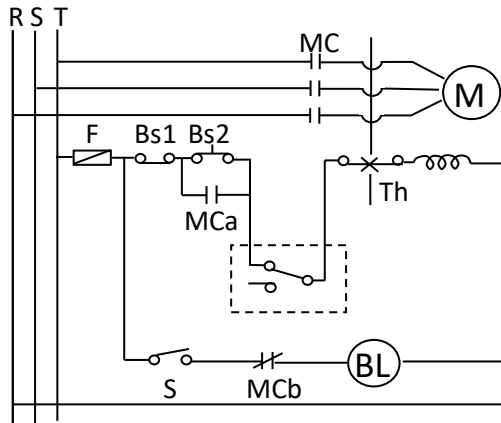
8, 油面計は出力軸側より見て右側に取付けるのを標準としています。

9, 弊社直納以外の輸送の場合は、穴なしプラグになっております、取付後、穴なしプラグを外して
空気穴の付いた物と必ず取替えてから運転してください。

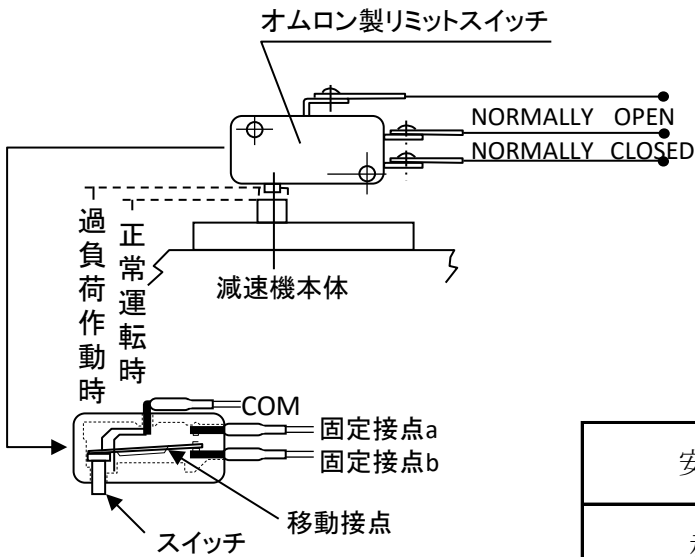
10, 穴なしプラグのまま運転されますと、油の攪拌熱により内部圧力が加わりオイルシール等より
油漏れの原因となります。

安全装置(1接点)付減速機

配線図



M	減速機駆動電動機
LS	安全装置用リミットスイッチ
MC	電磁開閉器
Bs1	停止用押ボタンスイッチ
Bs2	運転用押ボタンスイッチ
Mca	補助接点 (a接点)
Mcb	補助接点 (b接点)
Th	サーマルリレー
S	スイッチ
BL	警報機



リミットスイッチ負荷容量オムロンV15-1A形				
AC200V (100V)	無誘導負荷		誘導負荷	
	抵抗	ランプ	誘導	電動機
	15A	2A	10A	3A

安全装置用リミットスイッチ接続端子は別色です	
赤色	COM
白色	NORMALLY OPEN (a接点)
黒色	NORMALLY CLOSED (b接点)

※通常2本の配線は赤線 (COM) と白線 (OPEN) でつないでおります

※COM(赤)に対しa接点 b接点のいずれかを使用し リミットスイッチが作動したとき モーターが停止するよう配線してください

※安全装置 (リミットスイッチ) 作動停止のとき 必ず負荷側を点検し 過負荷を取り除いてください

※自動復帰
リミットスイッチは 過負荷停止の場合でもモーターが停止すれば 自動復帰いたします
万一復帰しないときは モーターを逆方向に手動で回転させてください

潤滑油交換要領書

※必ずモーターの電源をOFFにしてから作業して下さい。

図1

平均交換頻度 1～2回/年

ギヤーオイル

粘度規格VG-100相当品をご使用下さい。

- ①受け皿の準備
- ②給油プラグを手で左方向に回し外す

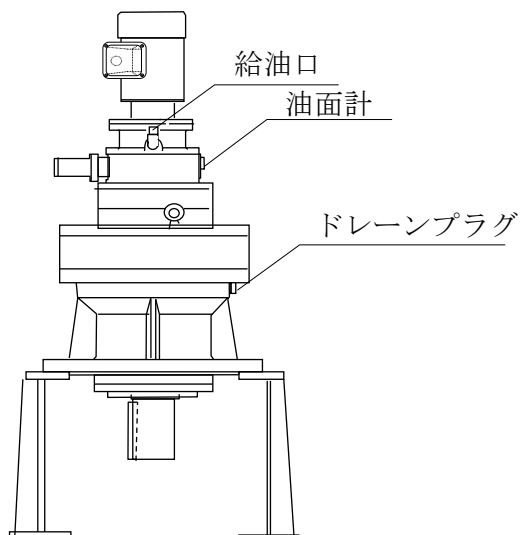


図2

- ①スパナかモンキーを使いドレーンを外す
- ②受皿を使い古い潤滑油を抜き取り
- ③ドレーンプラグの清掃
- ④ドレーンプラグにパイプシールを巻直しスパナで減速機に締めつけ

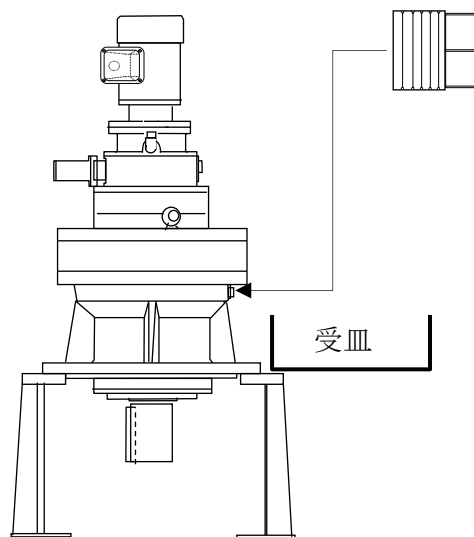


図3

- ①じょうごを差し込み
- ②オイルジョッキを使い適正油量より10少なく入れます
- ③以降は油面計を見ながら給油していきます

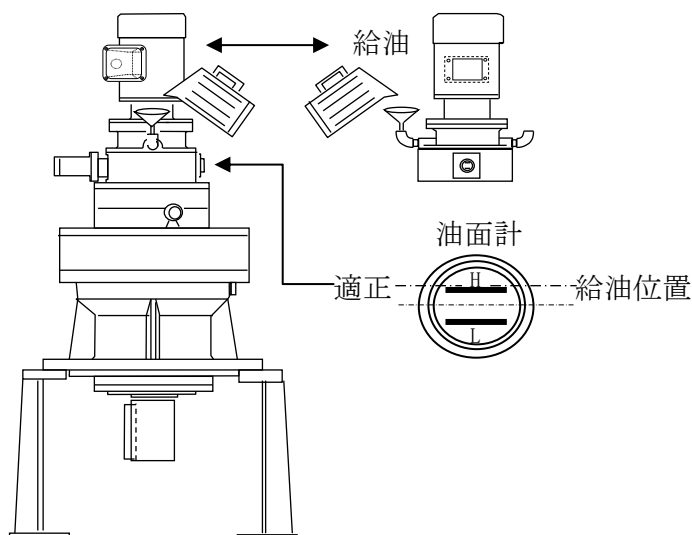
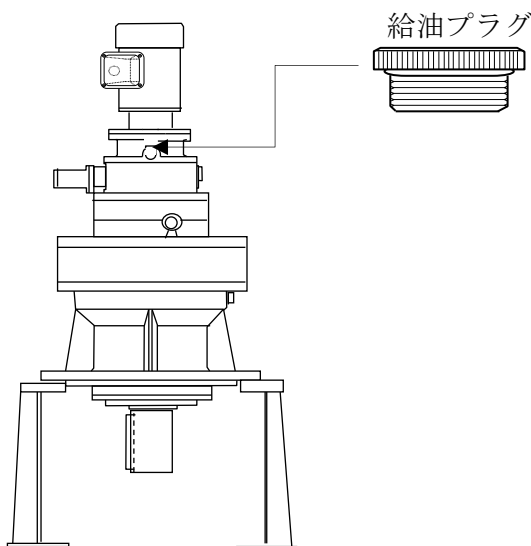







図4

- ①給油プラグを締めて完了



※交換には下記の道具が必要になります

パイプシール ※メーカーの指定はありません	スパナ(13)か モンキーを使用	オイルジョッキ	じょうご	廃油受け皿
				

潤滑油油量一覽表

型 式		油 量	型 式	油 量
G16	GM16	0.4	GVM16	1.0
G19	GM19	0.6	GVM19	1.5
G225	GM225	1.2	GVM225	2.0
G255	GM255	2.0	GVM255	2.5
G310	GM310	2.5	GVM310	4.0
G36	GM36	4.0	GVM36	6.0
G43	GM43	7.0	GVM43	9.0
G48	GM48	9.0	GVM48	12.0
GD19-16	GDM19-16	0.5	GDVM225-19	2.2
GD19	GDM19	0.6	GDVM255-19	3.0
GD225-19	GDM225-19	1.1	GDVM310-19	4.0
GD255-19	GDM255-19	1.7	GDSVM310-19	4.0
GD255-225	GDM255-225	1.8	GDVM36-225-19	7.0
			GDSVM36-225-19	7.5
GD310-19	GDM310-19	3.0	GDVM38-225-19	7.5
GD310-225	GDM310-225	3.5	GDVM43-310-19	14.0
GD36-225	GDM36-225	5.0	GDVM48-36-225	18.0
GD36-310	GDM36-310	6.0		
GD36	GDM36	6.0	RGDVM19	1.3
			RGDVM225-19	2.3
GDS36-225	GDSM36-225	5.0	RGDVM255-19	3.0
GDS36-310	GDSM36-310	6.0	RGDVM255-225-19	5.0
GDS36	GDSM36	8.0	RGDVM310-19	4.0
GD38-225	GDM38-225	8.0	RGDVM310-225-19	7.0
GD43-310	GDM43-310	9.0	RGDSVM310-19	4.0
			RGDSVM310-225-19	5.0
			RGDVM36-225-19	7.0
GD43-36	GDM43-36	9.0	RGDSVM36-225-19	7.5
GD43	GDM43-36	10.0	RGDVM38-225-19	7.5
GD48-36	GDM48-36	10.0	RGDVM43-310-19	14.0
GD48	GDM48-36	13.0	RGDVM48-36-225	22.0

故 障 と 対 策

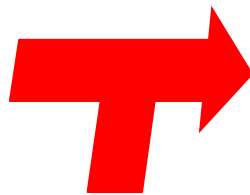
故 障	原 因	対 策
オイル漏れ	オイルシールの不良	オイルシールと入力シールキャップを交換。
	ボルトのゆるみ	ボルトを締めなおす。
	入力軸・出力軸の傷	軸部の交換。
	空気抜きが出来ていない	穴あきのオイルキャップと交換
	潤滑油の入れすぎ 本体のヒビが入っている	潤滑油の油量は油面計の1/2～2/3が目安です。 過負荷からくるヒビ割れ、本体の交換。
油 面 計	油面計から潤滑油が見えない	稼働中油量位置が変動する事があります異常音がなければ問題ありません
	油面計が汚れて見えない	オイルの汚れからくるものです、新しい油面計とオイルの交換。
音が高い時	潤滑油不足	潤滑油を油面計の1/2～2/3までいれます。
	接合部分の緩み	ボルト・接合部分の締め付け。
	過負荷運転	負荷を下げるか・許容トルクの大きい物に変える。
	軸受けの磨耗・損傷	軸受けの交換
	歯当たりの不良 異物の混入	ギヤー部の交換 混入物を取り除き洗浄しオイルを交換。
歯車の磨耗	過負荷運転	適正の荷重にする。
	潤滑油量の不足	油面計の1/2～2/3を目安に給油してください。
	潤滑油の粘度不良	適正の粘度オイルと交換。
	潤滑油の汚れ	内部を洗浄後、新しいオイルと交換。
	異物の混入	混入物を取り除き洗浄しオイルを交換
本体が熱くなる	過負荷運転	負荷を下げるか・許容トルクの大きい物に変える。
	潤滑油不足・過多	油面計の1/2～2/3を目安にあわせませす。
	潤滑油の汚れ	内部を洗浄後、新しいオイルと交換。
	潤滑油の粘度不良	適正の粘度オイルと交換。
	相手機械との接合不良	芯ブレの無いよう正しく取付。
	軸受けの取付不良	組み換えて正しい締め付けに交換。
本体・軸の損傷	過負荷運転	負荷を下げるか・許容トルクの大きい型式に変える。
	接合部の不良（芯ブレ）	芯ブレを直す。
入力軸・出力軸 ※重い	ベアリング部の損傷	ベアリングの交換
	オルダムの損傷	オルダムの交換
	ギヤーの損傷	ギヤー部の交換
	異物の混入	混入物を取り除き洗浄しオイルを交換
入力軸・出力軸 ※動かない	ベアリング部の損傷	ベアリングの交換
	オルダムの損傷	オルダムの交換
	ギヤーの損傷	ギヤー部の交換
入力軸が空回り ※空転する	キーの損傷	①キーの交換
	ギヤーカップリングの損傷	②ギヤーカップリング (0.2kw) の交換
		③モーター自体の交換

※定期的なオーバーホールをおすすめします。基本的な作業は出力部を除く消耗部品の交換になります。

主要交換部品として、ベアリング、オイルシール、出力部オルダムカップリング、潤滑油の交換となります。
作業員が分解時に消耗部品以外の箇所も点検を行いますので、消耗品以外の部品の摩耗、損傷等の早期発見にもつながり、減速機を長くご使用いただけます。

オイル粘度 オイル油量 交換期間

減 速 機	潤 滑 油	減速機の潤滑油はギヤーオイルISO粘度規格VG-100相当品をご使用下さい。
	補 給	4～6ヶ月毎に減速機を停止させ油面計の油量を点検してください 油面計の1/2～2/3が適量です。
	交 換	1年を目安に新しい油と交換してください。
変 速 機 減 速 機 (0.1kwのみ)	潤 滑 油	変速機の潤滑油は作動油ISO粘度規格VG-32相当品をご使用下さい。
	補 給	2～3ヶ月毎に変速機を停止させ油面計の油量を点検してください 油面計の1/2～2/3が適量です。
	交 換	半年を目安に新しい油と交換してください。



株式会社 東伸 (製造元)
〒224-0044 神奈川県横浜市都筑区川向町803 - 1
TEL 045 - 474 - 1781
FAX 045 - 474 - 1785
E-mail : toshin-g@pluto.plala.or.jp

東伸減速機株式会社 (減速機お問合せ先)
〒143 - 0025 東京都大田区南馬込6-15-12-305
TEL 03 - 4283 - 1385 FAX 03 - 3751 - 7944
E-mail : chiba_gensoku@ab.auone-net.jp